

## 「一致を目指して — ガルス以前のディサイプルス派」

### コリントの信徒への手紙— 1 章 10 節

政治経済学部特任チャプレン 洛雲海(ナグネ)

**さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心をつにし思いをつにしして、固く結び合いなさい。**

今から 2000 年ほど昔のこと、イスラエル地方にイエスという人が現れました。この人は十字架にかけられて死にましたが、なんと三日目には復活しました。この人をキリストと信じる人たちが集まって、エルサレムに最初のキリスト教会が出現しました。今、世界中に存在する教会は、このエルサレムの教会から始まりました。

キリスト教は本来一つです。ところが、世界にはいろいろな教派があります。ローマ・カトリック教会があり、ロシア正教やウクライナ正教などの正教会があります。カトリック教会から分かれたプロテスタント教会もあります。

プロテスタント教会の中にもいろいろな教派があります。ルーテル派あり、長老派あり、メソジスト派あり、バプテスト派あり、ホーリネス派あり、聖公会あり、その他にもいろいろあります。聖学院を設立した教派はディサイプルス派と呼ばれます。この教派の宣教師が 140 年前にアメリカから日本に来られて、宣教して下さったおかげでわたしたちの聖学院大学が存在します。

では、このディサイプルス派と呼ばれる群はいつどのような経緯でなぜ創設されたのでしょうか。またどのような性格の教派なのでしょうか。

ディサイプルスとは「弟子たち」を意味します。キリストの弟子たちという意味です。この群れに属する教会はアメリカでは約 130 万人、全世界では約 200 万人の信徒がいます。歴代大統領の中にもディサイプルス派の大統領が三人います。第 20 代大統領のジェームズ・ガーフィールド、第 36 代大統領のリンドン・ジョンソン、そして第 40 代大統領のロナルド・レーガンです。

ディサイプルス派が現われたのは 19 世紀のアメリカでした。当時のアメリカは道徳的にも精神的にもひどい状態にありました。それは 18 世紀後半に起こったイギリスからの独立戦争の影響でした。戦争によって身も心も疲弊していた人々の間で、18 世紀の終わり頃から信仰を復興させようとする運動が起こったのです。これをリバイバル運動と言います。このリバイバル運動を進めた人々の中にバート

ン・ストーンという牧師がいました。長老教会の牧師でした。

この人には悩みがありました。どうしてキリスト教にはいろんな教派があるのだろう、なぜキリスト教はお互いに一致できないでいるのだろう、と悩んだのです。

同じ思いでいる牧師たちは他にもいましたが、その中の一人が、ある日教会裁判で訴えられるという事件が起こりました。訴えられた理由は、その牧師のした説教にありました。その牧師は、自分の仕えている教会が大切にしている信条(ウェストミンスター信仰告白)に反する説教をしたと判断されたのです。

この事件の後、ストーン牧師は考えました。なぜキリスト教は一つになれず、いろいろな教派に分かれているのだろうか。教会が一つになれないでいるのは、教会が信条のようなものを持っているからではないか。、、、そこで、ストーン牧師は意を決して自分の属する長老教会を離れて、仲間たちと一緒に新しい教会の群を作ったのです。自分たちはもう長老派とかメソジスト派とかバプテスト派とかの教派にこだわるのは辞めよう、人間の作った教理や信条にではなく、ただ聖書に立って、「クリスチャンたちの教会」、「クリスチャン・チャーチ」と称して行こうと考えたのです。

ところで、19 世紀に入ると、アイルランドからアメリカに、長老教会のトーマス・キャンベル牧師がやってきました。この人もアイルランドの長老教会が内部分裂している状況に心を痛めていました。そこで、彼もまた「キリスト教会は一つだ」との信念のもと「ワシントン・クリスチャン協会」を立ち上げたのです。彼の息子のアレキサンダー(・キャンベル)も、父親のこの運動に合流しました。このキャンベル親子の始めたグループが「ディサイプルス・オブ・クライスト(つまり、キリストの弟子たち)」と呼ばれるようになったのです。

やがてストーン牧師に始まるクリスチャン・チャーチとキャンベル親子に始まるディサイプルス・オブ・クライストという二つのグループが出会い、合同して、ディサイプルス派の群＝クリスチャン・チャーチが結成されたのです。

では、ディサイプルス派とは、どのような性格の群でしょうか。ディサイプルス派は教会が大切にしている教理とか信条のようなものではなくて、聖書そのものを大切にします。それは、分裂ではなく一致を大切にしようとしたためでした。そのため、政治活動を避け、平和主義を堅持し、反戦の立場を明確にしました。また、それぞれの教会の独立性と自治権を重視しました。ディサイプルス派の人たちは、初代教会のキリスト者たちの姿へ近づこうとしたのです。

この他にも、ディサイプルス派の人たちには、大切にしていることがあります。ひとつは、毎週日曜日の礼拝でパンとブドウ酒を分かち合うことです。これは聖餐式と呼ばれますが、この儀式をとっても大切

にしています。また、洗礼の方法でも大切にしていることがあります。それは全身水に浸かるというやり方です。そのため、これを洗礼と言わずに浸礼といいます。このチャペルにも後の壁の向こう側、十字架の下には大きな浴槽のような場が設けられています。浸礼式が行われるときには、そこに水が入られるのです。また、ディサイプルス派では、自分で信仰を表明できない幼な子に浸礼を施すことをしません。いわゆる幼児洗礼を廃止しました。(さらに再洗礼を認めもしました。)何よりも、教会の最高意志決定機関を教会員全員で構成される教会総会に置きます。こうして民主的な教会を目指すのです。

その他にも、すべての人の救い、旧約聖書よりも新約聖書を重視すること、主日礼拝で信仰告白をしないこと、したがって使徒信条も告白しないこと、牧師や伝道師などの教職者と平信徒の間に根本的な差異を認めないこと、したがって聖霊に満たされた人こそが説教壇に立ち説教するという意味で、万人祭司主義を主張します。

これらの特徴を持つディサイプルス派において、やがて「外国クリスチャン伝道協会」が結成されました。ここから 1883 年には日本伝道が開始され、その翌年にはスミス宣教師とガルスト宣教師による日本伝道が秋田から始められることになったのでした。

さて、使徒パウロはコリントにいる信徒たちに宛てて、こう書き送りました。「兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい。」

ディサイプルス派のクリスチャンたちは、この勧告を真摯に受け止めて実践しようとしてきました。彼らは何よりも一致を目指したのです。彼らの信仰的純粋さ、つまり分裂よりは一致を目指そうとした姿勢を、わたしたちも大切にしていって歩んでまいりたいと思います。

お祈りしましょう。

天のお父さん

ディサイプルス派が生まれたことは、あなたの御心であったと信じます。

聖書を大切に、分裂よりは一致を目指したディサイプルス派の先達の信仰と志をわたしたちも大切にしていけることができますようお導きください。

イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

2023 年 10 月 12 日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖学院 120 周年を覚えて」